

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, March, 2008

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

3月の状況 (佐藤)

☆ 17P/Holmes

3月3日、千葉県船橋市の張替憲氏からOAA彗星課メーリングリスト(以下Oaa-comet ML)に「…九十九里海岸での眼視観測です。…17Pは肉眼では見えず3.5cm双眼鏡ではすぐ近くのSA056730 (6.6等)が淡い光芒に包まれたように見えました。…」との報告があった。また、熊本県南小国町の宇都宮章吾氏から「17Pは、肉眼でも見えるような感じですがはっきりしません。画像からは、カルフォルニア星雲に接近中なのがわかります。…」と報告された。続いて、北九州市の高尾明氏から、「宇都宮さんの17Pの画像を最初からずっと見てみると、初期の頃の興奮を思い出します。…ところで、これを見た大学の物理の先生が『物質を定常的に周囲に放出しながら等速運動をすると、こういう風に輪郭が放物線になる』と解説しておられました。『これは貴重な記録ですね』とも。理論的にはそうなのでしょうが、よく分かりませんが、全方向に放出するには回転だけでは難しいような気がしますので、不可解ではあります。」とのコメントがあった。また、芸西天文台の関課長は、「3月1日ですが、普段より春めいて、やや透明さに欠ける空でした。普通の望遠鏡ではまず見えませんので、例によって10×70mmの双眼鏡を向けました。しかし彗星の拡散した光芒が辛うじて確認できるだけで、その位置を肉眼で見ましたが、判然としませんでした。肉眼で見えたのは、結局2月一杯でした。」と報告された。3月に入ってかなり暗く条件の良い場所でも肉眼で観測するのはかなり厳しくなってきたようである。

しかし、写真で撮影した画像を見るとかなり淡く大きく広がった様子が伺えられる。3月25日、Oaa-comet MLに関課長は、「3月24日の晩…135mmF2の望遠レンズでモノクロ撮影を試みました。…ISO400のフィルムを現像してみると30秒と60秒の露出のコマに非常に拡散した光芒を発見しました。フィルム上で1cmの丸で、スケールを計算すると、なんとコマの大きさは、4.2度！集光度は1。霧の塊です。…」とコマが巨大化していることを報じた。アストロアーツなどの天体投稿画像を見ると、やはり5度ぐらいに広がったものがある。いずれもフィルム撮影だが偶然か？

眼視による観測が次のように報告されている。

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Mar.	1.45	6.0	30'	1	-	-	2/5	3/5	18×3.5cmB	張替 憲
	1.48	5.3	60	2	-	-	3/5	3/5	12×3.6cmB	宇都宮章吾
	1.50	6.7	60	0	-	-	3/5	4/5	10×7cmB	関 勉
	5.45	4.7	80	1	-	-	-	-	10×5cmR	吉田誠一
	7.50	7.0	70	1	-	-	3/5	4/5	10×7cmB	関 勉
	8.45	6.5	30	1	-	-	2/5	3/5	18×3.5cmB	張替 憲

☆ 46P/Wirtanen (写真 a)

oaa-comet ML に 3 月 5 日は、「たいへん明るく大きいです。集光もしっかりして、とても見やすいです。」(吉田誠一氏)、とまだ明るく集光していたが 28 日には「雨上がりで透明度が悪くなかったにもかかわらず、46P は IS0800、1 分露光のイメージ上に見出せませんでした。」(佐藤英貴氏)とかなり減光した様子が報告された。

眼視による観測が次のように報告されている。

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Mar.	1.44	10.0	3'	4	-	-	2/5	3/5	78×32cmL	張替 憲
	1.47	8.8	4	5	-	-	3/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾
	5.46	9.3	6.5	6	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一
	8.44	9.5	6	5	-	-	2/5	3/5	49×32cmL	張替 憲

☆ C/2008 C1 (陳-高:Chen-Gao) (写真 b)

3 月 6 日、吉田誠一氏から oaa-comet ML に「茨城県常陸大宮市・花立山自然公園の天文台「美スター」前での彗星観測です。…明るいですが、意外にもかなり集光が弱い拡散状で、大きく広がっています。…」と報告があった。10 日は、千葉県船橋市の張替憲氏から「…九十九里海岸での眼視観測です。…春めいた南東風が強く 100m 先の太平洋の海鳴りが終夜響き渡っていました。潮風と夕方の光害の影響で透明度は中以下でした。…倍率を上げて背景を暗くしてようやく淡く拡散した姿を確認することができました。…」と 1 日には確認できなかったがようやく確認したとの報告があった。3 月 26 日、新潟県十日町市の村上茂樹氏から「当地では、12 月～2 月はほとんど晴れませんでした、今月はようやく晴れの日が多くなってきました。報告が遅れましたが、満月の下、陳・高彗星を初めて観測しました。」のコメントと光度観測報告があった。

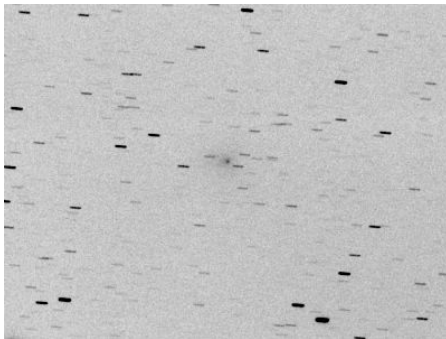
眼視による観測が次のように報告されている。

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Mar.	5.49	10.3	3.5'	3	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一
	8.43	11.0	4	3	-	-	2/5	3/5	78×32cmL	張替 憲
	22.53	11.0	0.8	3	-	-	-	-	157×46cmL	村上茂樹

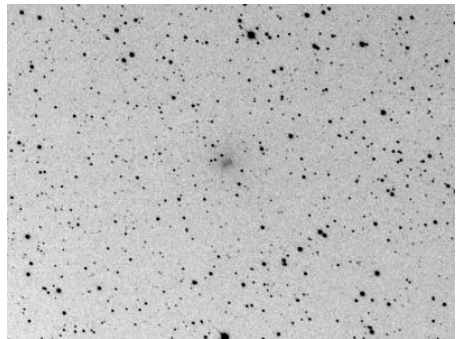
その他 3 月中に発見・検出された彗星は次のとおり。

- ☆ C/2008 E1 (Catalina) 3 月 2.14 日 UT, Catalina スカイサーベイにより小惑星状天体が発見され、小惑星センターの NEOCP ウェブページに掲載後 P. Birtwhistle (Great Shefford, Berkshire, 英国, 0.40-m f/6 Schmidt-Cassegrain 反射)ら CCD 位置観測者によって彗星状であることが確認された。(IAUC 8923, 2008 Mar. 4)
- ☆ P/2003 KV<sub>2</sub> = P/2008 E2 (LINEAR) 3 月 3.47 UT, Catalina スカイサーベイにより発見された小惑星状天体が小惑星センターの NEOCP ウェブページに掲載後、S. Foglia (Novara Veveri, イタリア)は C/2003 KV<sub>2</sub> であると示唆した。MPC 56801 の中野圭一氏の予報に対する修正は、 $\Delta T = +0.8$  day であった。(IAUC 8924, 2008 Mar. 4) その後、197P と番号登録された。
- ☆ C/2008 E3 (Garradd) 3 月 5.78 日 UT, G. J. Garradd は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡によって視直径 20" の拡散した天体を発見した。小惑星センターの NEOCP ウェブページに掲載後、E. Guido と G. Sostero (Castellammare di Stabia, イタリア、オーストラリア Moorook 近郊の RAS 天文台の 0.25-m f/3.4 リモート反射望遠鏡を使用)は、10" 近いコマと強い中央集光そして北に 18" の幅広い尾を観測した。(IAUC 8927, 2008 Mar. 8)

その他比較的明るい彗星は、29P/Schwassmann-Wachmann、70P/Kojima、93P/Lovas、C/2007 W1 (Boattini)、C/2007 B2 (Skiff)、C/2005 L3 (McNaught) などであった。



(写真 a) 46P/Wirtanen 2008, 03, 21  
19h 20.0m-30.0m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2008 C1 (Chen-Gao) 2008, 03, 05  
20h 10.0m-20.0m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏